

## NGO フォーラム設立経緯

NGO フォーラム事務局

2008年に日本でG8サミットが開催されるにあたり、日本のNGOがネットワークを作り始めたのは2006年の秋頃であった。G8サミットを巡るNGOの世界的な動きとしては、2000年前後から、G8サミットのホスト国の市民社会がネットワークを作り、G8サミット諸国に働きかける動きが活発化していた。日本でも、ホストである日本政府を中心にG8サミット諸国に対して提言活動を行なう必要性がNGOの間で共有され、連携して活動する機運が高まってきた。G8サミットの場合は、グローバルイシューに対する日本のNGOの価値観、提言能力、役割といったものが世界の関係者の前でさらされる場である。そのため、日本のNGOとして力が最大限発揮できるネットワークが模索された。

提言活動のためのネットワークづくりの最初の会議が開かれたのは2006年10月だった。それ以後、毎月1~2回程度の頻度で準備会合が開かれ、ネットワークづくりに関わるさまざまな議論が行なわれた。

当初は、主に貧困問題（教育、貿易、HIV/AIDSなどの感染症、女性の社会参加など）に関心が高いNGOが中心に集まって議論を進めていた。貧困・開発系のNGOが中心となっていたのは、環境、人権、平和などにかかわるNGOは独自に提言活動を進める可能性があったため、その時は必要に応じて活動をリンクするよう努力する、といった姿勢をとっていたからである。しかし、環境問題に取り組むNGOグループから、「政府と交渉し、社会に広く訴えるときに、バラバラの窓口では効果がない。一緒にひとつのプラットフォームをつくるべきである」という発言が出たことから、数回目の会合の段階から環境系のNGOも参加して準備会合を開催することになった。また、貧困・開発に関する問題と気候変動や生物多様性などの環境問題は相互に関連しており、分野横断的な提言活動をしていく必要性がNGOの間で認識されていたことも連携を進める結果となった。その後、人権分野、平和分野のNGOとも協力することになり、日本ではじめてグローバルイシューに携わるNGOが結集し、2008年G8サミットNGOフォーラム（以下、NGOフォーラム）が結成されることになった。

準備会合での主な議論は、趣意書の内容、組織のあり方、意思決定の方法などについてであった。準備会合を何度も行なっていく中で、徐々に現在のNGOフォーラムの形ができあがっていった。

1月31日、環境パートナーシップオフィス会議室に、運営NGOが34団体、サポートNGOが



結成会

11団体集まり、結成会が開催された。また、参加登録を行なった団体は68にも上った。この結成式では、長時間の議論の末、趣意書と運営規定が承認された。その結果、提言のための3つユニット「貧困・開発」「環境」「人権・平和」が設立され、各ユニットが後日集まって運営方針やリーダーを決めることになった。代表については3つのユニットからのリーダーが集まって、後日選出することになった。そして、選ばれた代表とユニットリーダーとで、「世話人会」が設置され、そこが全体の運営をするることになっ

たのである。

## NGO フォーラムの活動 < 第 1 期 >

NGO フォーラム事務局

### 「2008 年 G8 サミット NGO フォーラム」設立記念シンポジウム

2007 年 2 月 10 日土曜日、東京ウィメンズプラザで NGO フォーラムの設立記念シンポジウムが開かれた。このシンポジウムは「市民社会と政府との対話がグローバル社会を変える」と題さ



設立記念シンポジウム

れ、政府とは異なる視座から知見を蓄積してきた NGO が、政府に対して地球規模の課題の解決に向けた提言を行なうということが強く意識された。

シンポジウムでは、まず「環境」「貧困・開発」「人権・平和」の 3 つのユニットから、それぞれが取り組む問題の状況と提言についての発表があった。その後、「G8 サミット開催に向けて市民社会ができること、市民社会と政府との対話は可能か」と題してパネルディスカッションが行なわれ、3 つのテーマで議論が行なわれた。

3 つのテーマの 1 つ目は、「MDGs 達成に向けた市民社会の役割」と題されて、国連開発計画(UNDP)広報・市民社会担当官の三上知佐氏が発表を行なった。次に、外務省経済局政策課 G8 サミット班課長補佐、松本好一朗氏が「G8 サミットのアジェンダ、そして NGO に何を求めるか」について発表し、最後に早稲田大学教授の黒田一雄氏が「市民社会・NGO が果たすべき役割、NGO と政府機関の対話の必要性」というテーマの基で話を行なった。

日程	2007 年 2 月 10 日(土) 午後 1 時 30 分～4 時 30 分
会場	東京ウィメンズプラザ ホール
主催	2008 年 G8 サミット NGO フォーラム / (特活) 国際協力 NGO センター
助成	(特活) ほっとけない世界のまずしさ
1 時 30 分 ～	開会の挨拶 (特活) 国際協力 NGO センター 理事長 船戸良隆氏
1 時 35 分 ～ 2 時 35 分	第 1 部 : 「2008 年 G8 サミット NGO フォーラム」のアピール ～ 「貧困・開発」「環境」「平和・人権」分野からの提言 環境ユニット・リーダー代行 鮎川ゆりか氏 (財) 世界自然保護基金ジャパン 気候変動グループ長 貧困・開発ユニット・リーダー 秦辰也氏 (社) シャンティ国際ボランティア会 専務理事 人権・平和ユニット・リーダー 川崎哲氏 ピースポート 共同代表

2時40分 ～ 4時25分	第2部：パネルディスカッション「G8 サミット開催に向けて市民社会ができること、市民社会と政府との対話は可能か」 テーマ：「ミレニアム開発目標（MDGs）達成に向けた市民社会の役割」 国連開発計画(UNDP) 広報・市民社会担当官 三上知佐氏 テーマ：「G8 サミットのアジェンダ、そして NGO に何を求めるか」 外務省 経済局政策課 G8 サミット班 課長補佐 松本好一朗氏 テーマ：「市民社会・NGO が果たすべき役割、NGO と政府機関の対話の必要性」 早稲田大学 教授 黒田一雄氏 ファシリテーター：(特活)国際協力 NGO センター 副理事長 大橋正明氏
4時25分 ～	閉会の挨拶 ほっとけない世界のまずしさ 代表 林達雄氏
	全体司会： 国際協力 NGO センター 下澤嶽

## ドイツ、ハイリゲンダムサミットへの参加

2007年6月6日、7日、8日にドイツ、ハイリゲンダムでG8サミットが開かれた。NGO フォーラムからは、19名程度がドイツに出張した。主な参加者は、星野昌子代表、大橋正明副代表、大林ミカ環境ユニットリーダー、秦辰也貧困・開発ユニットリーダー、野平晋作人権・平和ユニットリーダー代理である。主な目的は、メディアワークを通じた情報発信および翌年の北海道洞爺湖サミットを見据えたG8サミット周辺でのNGOの動きに関する調査である。

前者については、数名がサミット会場近くに設置されたメディアセンターに入り、情報収集やプレスリリースの発表などメディアワークを行なった。また、メディアセンター外でもG8サミットの成果文書に対してプレスリリースを発表したり、日本の記者を対象に記者会見を開くなど、積極的な情報発信を行なった。



オルタナティブサミットでドイツから旗を引き継ぐ星野代表

メディアセンターでメディアワークを行なう NGO 以外の NGO は、G8 サミット会場近くの街、ロストックに集まり、オルタナティブサミットをはじめとするさまざまなイベントを開いていた。NGO フォーラムのメンバーは、これらのイベントに参加し、NGO の活動の様子を調査した。また、このハイリゲンダムサミットに向けて活動してきたドイツの主な NGO 数団体とミーティングを持ち、サミットに向けた提言の内容や提言活動、イベントの開き方について意見を交換した。

## ドイツサミット報告会

NGO フォーラムから 2007 年 6 月初旬に開かれたドイツハイリゲンドラムサミットに 20 名ほどが参加したことを受けて、ドイツサミットの成果と課題、および翌年の洞爺湖サミットに向けた日本の NGO の取り組みを考え、議論するために報告会を開催した。

この報告会は 2007 年 6 月 30 日(土)に中央大学駿河台記念館で開かれ、182 名が参加した。まず、「ハイリゲンドラムサミットの報告」というテーマの下で、ハイリゲンドラムサミットに参加した NGO 側からの簡単な報告の後、ハイリゲンドラムサミットに向けたドイツの NGO 活動



ドイツサミット報告会

の中で中心的な役割を担った「環境と開発に関するドイツ NGO フォーラム」のユルゲン・マイヤー氏からドイツサミットの評価について報告が行なわれた。さらに 3 番目の報告として外務省、環境省からそれぞれ鶴岡氏、谷津氏が政府の視点からドイツサミットの報告を行なった。

次に、「NGO の視点」と題してハイリゲンドラムサミットを評価する際の論点と翌年の洞爺湖サミットに向けた論点が NGO フォーラムのメンバーから発表された。

### プログラム：

日程	2007 年 6 月 30 日(土) 午後 1 時 30 分～4 時 30 分
会場	中央大学駿河台記念館 370 号室
主催	2008 年 G8 サミット NGO フォーラム
13:30～13:40	開会の挨拶 2008 年 G8 サミット NGO フォーラム 代表 星野昌子
13:40～15:20 (100 分)	ハイリゲンドラムサミットの報告 進行：2008 年 G8 サミット NGO フォーラム 副代表 鮎川ゆりか 報告 1：ハイリゲンドラムサミットに参加して：全体総括 (10 分) (特活) ほっとけない世界のまずしさ 高木晶弘 報告 2：ユルゲン・マイヤー氏よりドイツサミットの報告 (逐次通訳、50 分) 環境と開発に関するドイツ NGO フォーラム 代表 (Mr.Jurgen Maier、Executive Director, German NGO Forum Environment & Development 報告 3：政府からの報告 (20 分) 外務省 地球規模課題審議官[大使] 鶴岡公二氏 環境省 大臣官房審議官 谷津龍太郎氏 質疑応答・意見交換 (20 分)
15:30～16:25 (55 分)	NGO の視点 ～ハイリゲンドラムの論点と日本でのサミット開催に向けて～ 各ユニット(「貧困・開発」・「環境」・「人権・平和」)からの発言： ハイリゲンドラムの論点と日本のサミットへの論点

	<p>進行：2008年G8サミットNGOフォーラム 副代表 大橋正明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困・開発ユニット（10分）          貧困・開発ユニット／（特活）オックスファム・ジャパン          山田太雲</li> <li>・環境ユニット（10分）          環境ユニットリーダー／（特活）環境エネルギー政策研究所          大林ミカ</li> <li>・人権・平和ユニット（10分）          人権・平和ユニット／ピースボート 野平晋作          人権・平和ユニット／（特活）NICE 開澤真一郎</li> <li>・ユースG8活動紹介          ユースG8準備委員会 福島宏希（2分）</li> </ul> <p>質疑応答・意見交換（20分）</p>
	<p>全体司会：JANIC 事務局長 下澤嶽</p>



また、このシンポジウムに先立って、6月28日（木）17時～19時に、NGOフォーラム関係者とは他セクターの方との交流を目的に立食パーティを星陵会館にて開催した。議員5名、議員秘書7名、シェルパの河野雅治氏（外務省 外務審議官）を含む政府関係者7名、助成財団や各国大使を含む他セクター関係者7名を含む88名が参加した。

#### パーティー

このパーティーでは、河野シェルパが挨拶の中で翌年のCivilG8対話の開催を示唆するなど、政府が市民社会と積極的に対話していこうとする姿勢を明らかにした。このパーティーがNGOフォーラムにとって河野シェルパを招いた最初の機会であり、この後NGOフォーラムと政府の対話がより進んでいくことになる。



河野シェルパのあいさつ

## NGO フォーラムの活動 < 第 2 期 >

NGO フォーラム事務局

### シンポジウム「2008 年 G8 サミットに向けて日本の市民社会ができること」

NGO フォーラムは、2007 年 9 月をもって第 1 期の活動を終了し、10 月より第 2 期の活動に入った。第 1 期の活動を終えるにあたり、総会を開き、第 1 期の活動の見直しを行なうとともに、役員の変更作業も行なった。そして、第 2 期の活動開始に際して(特活)国際協力 NGO センターとの共催でシンポジウムを開き、アジアやアフリカから海外ゲストを招き、さまざまな議論を行なうとともに、NGO フォーラムが作成したポジション・ペーパーについても意見を交換した。

このシンポジウムは 10 月 14 日(日) 田町の「女性と仕事の未来館」にて、「2008 年 G8 サミットに向けて日本の市民社会ができること」と題して開かれた。参加者は、NGO 関係者、政府関係者、企業関係者、メディア、一般市民など 230 名に達した。また海外からもケニア、インド、セネガルの 3 カ国から NGO、国連環境計画に所属するゲストを招いた。

午前中のセッションでは海外ゲストが気候変動と貧困問題のつながり、人権の視点から見た貧困問題、アジアやアフリカの貧困問題や環境問題の現状などについての講演を行なった。午後には「環境」「人権・平和」「貧困・開発」の分野別(フォーラムのユニット別)の分科会が開催され、フォーラムの各ユニットが作成したポジション・ペーパーに関する議論を深めた。さらに夕方の総括のセッションでは、参加者を交えた活発な意見交換が行われ、気候変動を含めた環境問題や、貧困・開発問題、人権・平和の問題は、密接に関連していることや、メディアや企業、一般市民などへ広くアピールしていくことの重要性が指摘された。



全体会「アジア・アフリカからの声を聴く」

#### プログラム

日時	2007 年 10 月 14 日(日) 午前 10 時～午後 16 時
会場	女性と仕事の未来館
主催	2008 年 G8 サミット NGO フォーラム/(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)
助成	国際交流基金
10:00～10:05	開会のあいさつ 下澤 嶽 (特活)国際協力 NGO センター 事務局長
10:05～10:25	「2008 年 G8 サミット NGO フォーラム」ポジション・ペーパー(ドラフト)の発表 星野昌子 2008 年 G8 サミット NGO フォーラム 代表

10 : 25 ~ 11 : 55	<p>アジア・アフリカからの声を聴く  ~ 貧困、環境、人権・平和問題の現状と課題</p> <p>1 .「環境問題と貧困問題のつながり」  ンジェリ・ワムコンヤ氏 国連環境計画（UNEP）アフリカ地域事務所  技術・経済・産業課 エネルギープログラムオフィサー</p> <p>2 .「アフリカの市民社会における環境問題と貧困問題の現状  ~ 西アフリカの漁業セクターのケース・スタディーから」  パパ・ンジャイエ氏 第三世界環境・開発アクション（ENDA）  政策提言担当プログラム・オフィサー</p> <p>3 .「アジアにおける気候変動：論点と課題」  アンチャ・スリニヴァサン氏 （財）地球環境戦略研究機関（IGES）  気候政策プロジェクト上席研究員／マネージャー</p> <p>4 .「南アジアの貧困問題～人権の視点から」  アニル・シン氏 社会と農業開発のための南アジアネットワーク  （SANSAD）事務局長</p> <p>ファシリテーター：2008年G8サミットNGOフォーラム 副代表 鮎川ゆりか</p>
11 : 55 ~ 12 : 00	休憩
12 : 00 ~ 12 : 30	<p>質疑応答、意見交換</p> <p>ファシリテーター：2008年G8サミットNGOフォーラム 副代表 鮎川ゆりか</p>
12 : 30 ~ 13 : 50	お昼休み
3 : 50 ~ 15 : 20	<p>分科会：ポジション・ペーパーに関する意見交換  （*3つの分科会に分かれて、イシュー別の議論を行う）</p> <p>a) 環境ユニット「気候変動と開発」  リソースパーソン：ンジェリ・ワムコンヤ 国連環境計画 アフリカ地域事務所  アンチャ・スリニヴァサン （財）地球環境戦略研究機関  鮎川ゆりか 2008年G8サミットNGOフォーラム 副代表  ファシリテーター：大林ミカ （特活）環境エネルギー政策研究所 副所長</p> <p>b) 人権・平和ユニット  「南アジア - 人権侵害としての貧困：日本のわたし達に出来ることは？」  リソースパーソン：アニル・シン 社会と農業開発のための南アジアネットワーク  ファシリテーター：森田明彦 人身売買禁止ネットワーク 運営委員</p> <p>c) 貧困・開発ユニット「貧困のない世界をめざして」  リソースパーソン：パパ・ンジャイエ 第三世界環境・開発アクション  船田クラークセンさやか （特活）TICAD 市民社会  フォーラム 副代表  林達雄 （特活）ほっとけない世界のまずしさ 代表理事  ファシリテーター：稲場雅紀（特活）アフリカ日本協議会  国際保健分野プログラム・ディレクター</p>
15 : 20 ~ 15 : 30	休憩



15:30~16:30	分科会の発表、全体総括 ファシリテーター:大橋正明 2008年G8サミットNGOフォーラム 副代表
	全体司会:国際協力NGOセンター 下澤嶽

## シェルパ対話集会

2008年1月、日本政府がサミットの議長国となったことを受け、福田首相が世界経済フォーラム（ダボス会議）で08年のサミットの議題発表を行なった。福田首相の演説に際して、NGOフォーラムは、会議の直前声明を発表するとともに、福田達夫秘書官に直接声明を手渡した。

また、NGOフォーラムは、首脳個人代表との対話を行なうために、2月19日に星陵会館で政府との対話集会を開いた。この対話集会には、外務省からシェルパである河野雅治外務審議官、環境省から小島敏郎地球環境審議官を招いた。会合の目的は、7月の洞爺湖サミットで議論される課題と現在の進捗状況の共有、そして政府とNGOとの意見交換である。

まず、河野氏が基調講演として、サミットの議題および政府の考えた方について講演を行なった。その後、NGOフォーラムの各ユニットからそれぞれの提言についてプレゼンテーションがあり、NGOの提言を基に河野氏、小島氏との意見交換が行なわれた。



パネル「NGO・政府の対話」

## プログラム

日時	2008年2月19日(火) 18:30~20:30
場所	星陵会館
主催	2008年G8サミットNGOフォーラム
18:30~	開会挨拶 フォーラム代表 星野 昌子
18:40~	基調講演 - G8サミットに向けて「G8サミットへの抱負」 講演 河野 雅治 外務審議官
18:55~	NGO提言 - 貧困・開発ユニット 稲場 雅紀 - 人権・平和ユニット 川崎 哲 - 環境ユニット 安間 武
19:10~	NGO・政府の対話 コーディネーター 大林 ミカ

	<p>パネリスト</p> <p>政府：外務省 河野雅治外務審議官 環境省 小島敏郎地球環境審議官</p> <p>NGO：鮎川ゆりか NGO フォーラム副代表 秦辰也 貧困・開発ユニットリーダー 熊岡路矢 NGO フォーラム監事 秋山孝二 G8 サミット市民フォーラム北海道共同代表</p>
20：00～	質疑応答
20：15～	NGO フォーラムの今後の活動について NGO フォーラム副代表 大橋 正明
20：25～	閉会挨拶 大橋 正明
	全体司会：星野智子

## CivilG8 対話

CivilG8 対話は、G8 諸国のシェルパと世界の NGO が意見を交換する場であり、2006 年のロシア・サンクトペテルブルグサミットで開始された。翌年の 2007 年にもドイツのベルリンで 4 月に開かれ、サミット前にシェルパ全員と市民社会が意見を交換する場として重要なものとなった。

2008 年の日本でもこのような流れを受け、CivilG8 対話が 4 月 23 日、24 日に京都でシェルパ会合に合わせて開かれた。シェルパと市民社会の対話セッションは 2 日目、24 日午後 2 時間行われ、フランスを除く 8 人のシェルパが参加した。市民社会側からは、招聘者を含めて海外から 52 名が参加し、また日本国内の参加者も含めると 200 名以上が参加した。

日本では、NGO フォーラムが CivilG8 対話の主催団体として NGO のとりまとめを行なった。CivilG8 対話開催にあたり、NGO フォーラム内では実行委員会を設け、過去の CivilG8 対話参加者を中心に準備を行なった。この実行委員会が、外務省との折衝や海外 NGO とのやり取りを含め、CivilG8 対話の実施、運営を行なった。

CivilG8 対話のプログラムは、まず 1 日目（4 月 23 日）に全体セッションとして 4 つのセッションが組まれた。それぞれ「G8 プロセスと洞爺湖サミット - 市民社会からの視点、期待および提言」「貧困開発：MDGs の達成に向けて - 貧困のない公平な世界を求めて」「人権と平和：G8 アジェンダと権利ベースアプローチ」「G8 と環境」であった。スピーカーとしては、日本政府関係者と各国の NGO 関係者が参加し、それぞれの分野で活発な議論が展開された。

2 日目（4 月 24 日）は午前、午後に個別の 이슈に特化したワークショップが開かれた。午前（10：00～12：00）のワークショップでは「気候変動」「3R イニシアティブ」「開発資金」「国際保健」「腐敗防止」「民主化とグッドガバナンス」のテーマで議論が展開された。また午後（13：30～15：30）には「気候変動」「生物多様性」「貧困・開発 - 各分科会からの報告」「G8 プロセスと市民社会の役割」の 4 つのワークショップが開かれた。その後、休憩を挟み、2 時間の G8 シェルパとのラウンドテーブルに入った。



ラウンドテーブル

写真：Yuko Yanase

シェルパとのラウンドテーブルには、フランスを除く 8 名のシェルパと NGO から 20 名が参加した。またオブザーバーとして 200 名がラウンドテーブルを取り囲む形で着席した。ラウンドテーブルのファシリテーターは、河野雅治外務審議官、大林ミカ環境ユニットリーダー、石井澄江貧困・開発ユニットリーダーの 3 名が担当した。ラウンドテーブルでの議論は 2 部に分かれており、まずセッション 1 として「環境・気候変動」、セッション 2 として「開発・アフリカ」が議論された。

## 首相對話

---



福田首相との対話

写真：2008. Furuya.Hitoshi

近年の G8 プロセスでは、CivilG8 対話で市民社会とシェルパが意見を交換する場が設定されただけではなく、ホスト国の首脳と世界の NGO が意見交換する場も設けられるようになっている。2008 年も 6 月 18 日に福田首相と NGO の 1 時間半の意見交換が実現した。この会合には国際 NGO10 団体が参加し、日本からも NGO フォーラムの役員が出席した。会合では、

環境、貧困・開発、そして人権・平和のそれぞれの 이슈について話合われた。また、会合に先立って、「100 万人のたんざくアクション」のキャンペーンで集めた市民の声が直接福田首相に手渡された。

## 市民サミット

---

NGO フォーラムは G8 サミット市民フォーラム北海道と共催で、2008 年 7 月 7 日～9 日の G8 サミットと並行して、NGO が主催するサミット「市民サミット 2008」を 7 月 6 日～7 月 8

日の間、札幌で開いた。これまでの G8 サミットの歴史でも、市民社会が G8 サミットと並行して独自のサミットを開くことが慣例化しており、2008 年のサミットでも NGO フォーラムは同様の準備を半年以上前から北海道の市民社会と連携して行なってきた。



市民サミット 2008 シンポジウム  
「第 2 部 持続可能なグローバル社会へ」

6 日の初日のオープニングシンポジウムには、8 名のスピーカーが世界の貧困の課題、環境の課題について問題提起をし、約 400 名近い参加者を集めた。7 日と 8 日の午前は 50 近いワークショップとセミナーが札幌の各地で NGO や参加団体によって実施された。また、7 日の午前には、貧困・開発ユニットが「世界市民の声 - 貧困をなくすために」を開催し、「札幌宣言」が採択された。8 日のクロージングセッションには、約 250 名が参加し、3 人のスピーカー以外にも会場から多数の意見があげられた。特

に、世界中のさまざまな課題の深刻さ、G8 政府の責任の重さ、G8 サミットをもっと市民社会に開かれたものにするべき、という声が多数上げられた。

NGO フォーラムでは、市民サミットの他にもたんざくアクション関連のイベントを行ない、情報の発信を行なうとともに、多数の市民の声を集めた。たんざくアクションを通して集めた世界の市民の声は最終的に 70 万を越える数になった。

#### 市民サミット 2008 プログラム

日時	2008 年 7 月 6 日～8 日
会場	札幌コンベンションセンター / 北海道大学学術交流会館 / 札幌エルプラザ環境研修室 / 北海道クリスチャンセンター
主催	G8 サミット市民フォーラム北海道 / 2008 年 G8 サミット NGO フォーラム
後援	札幌市
助成	両主催団体を通じて、多くの方から助成していただきました。 NGO フォーラムの助成団体について、詳しくは報告書 67 ページの一覧をご覧ください。
7 月 6 日 (日)	
13 : 00 ~ 13 : 20	オープニング・セレモニー 先住民の祈り：結城幸司 (アイヌ・アート・プロジェクト) ロサリーナ・トゥクク (グアテマラ) 開会あいさつ：秋山孝二 (G8 サミット市民フォーラム北海道 共同代表)
13 : 20 ~ 17 : 00	オープニング・シンポジウム “人々の声を世界に響かせる”

	<p>第1部 「貧困を過去のものに」</p> <p>クミ・ナイドゥー (GCAP: 貧困をなくすためのグローバル・コール)</p> <p>シェイク・シャバン・ムバジェ (ウガンダ・ムスリム最高評議会)</p> <p>ロス・カニンガム (ワンキ・タグニ: ミスキート先住民族組織)</p> <p>ノエリン・カレーバ (エイズ支援機構: TASO)</p> <p>第2部 「持続可能なグローバル社会へ」</p> <p>枝廣淳子 (E's 代表 地球温暖化に関する懇親会メンバー)</p> <p>ユルゲン・マイヤー (環境と開発に関するドイツ NGO フォーラム)</p> <p>メダ・パトカル (セイブ・ナルマダ運動)</p> <p>ウォールデン・ベロー (フォーカス・オンザ・グローバル・サウス)</p> <p>ファシリテーター: 宮内泰介 (G8 サミット市民フォーラム北海道)</p> <p>閉会あいさつ:</p> <p>星野昌子 (2008年 G8 サミット NGO フォーラム 代表)</p>
7月7日(月)	
10:00~21:00	<p>参加団体による分科会とセミナー、ワークショップ</p> <p>分科会: 午前「世界市民の声~貧困をなくすために」</p> <p>分科会: 午後「洞爺湖サミットは気候変動問題にいかにか立ち向かえるか」</p> <p>分科会: 夜間「北海道発、世界の未来 ~環境・農業・地域自立」</p> <p>+ 33のセミナーやワークショップ</p>
7月8日(火)	
10:00~13:00	<p>参加団体による分科会とセミナー、ワークショップ</p> <p>分科会: 午前「世界を変えるキャンペーンワークショップ~日本からイタリアへ」</p> <p>+ 3つのセミナーやワークショップ</p>
14:00~16:30	<p>クロージング・セッション</p> <p>“世界は、きっと、変えられる”</p> <p>第1部</p> <p>ミニー・デガワン (変革のための先住民ネットワーク)</p> <p>ビノード・レイナ (全インド民衆科学運動ネットワーク)</p> <p>杉山さかゑ (G8 サミット市民フォーラム北海道)</p> <p>モデレーター:</p> <p>大橋正明 (2008年 G8 サミット NGO フォーラム 副代表)</p> <p>第2部: 参加型セッション(発言者)</p> <p>小倉利丸 (G8を問う連絡会)</p> <p>上村英明 (市民外交センター)</p> <p>木幡カムイサニヒ (先住民族サミットアイヌモシリ 2008 実行委員会)</p> <p>熊谷桂子 (ゆうばり再生市民会議)</p> <p>熊岡路矢 (JVC)</p> <p>道家哲平 (日本自然保護協会)</p>

	山下洋（生物多様性フォーラム） Anil Singh（貧困と国際ネットワーク） 北嶋信雅（日本生協連合会保健部会） Noel（Africa Jubilee South） 横田愛（毎日新聞社） 林雄太（Youth G8 Project） 草野竹史（環境 NGO ezorock） 岩附由香（2008 年 G8 サミット NGO フォーラムキャンペーンチーム） サラ・ペタリーニ（イタリア）
	閉会スピーチ 星野昌子（2008 年 G8 サミット NGO フォーラム代表）

## 国際メディアセンター

NGO フォーラムでは、札幌で市民サミットを開催するとともに、ルスツに設置された国際メディアセンターでの NGO の活動の取りまとめも行なった。過去の G8 サミットでも、メディアセンターで NGO はさまざまな活動を行なってきているため、今回の G8 サミットについても NGO フォーラムはメディアセンターに入るパスの発給を外務省に求めていた。最終的に、パスが発行され 100 名ほどの NGO 関係者がメディアセンターに入り活動を行なった。



サミット総括記者会見

今回のサミットでは、メディアセンターに NGO のワーキングスペースが設けられた。また、NGO が独占的に使用できる記者会見場も設置された。記者会見場が設置されたのは G8 サミット上始めてのことであった。サミット期間中、NGO の記者会見数は 20 にも上り、また多数のメディアが取材するなど、NGO の発言に対する注目度は高かったといえる。NGO フォーラムは、ワーキングスペースと記者会見場の管理、運営を行なうとともに、NGO フォーラムとしても記者会見を行ない、メディアに対して情報を発信した。